

旭中央病院新人教育カリキュラム

新人薬剤師は調剤室業務および注射調剤業務を中心に幅広く業務を経験する。臨床に即した知識・技能を学べるように薬剤局全体でサポートしていく。1年目は主に中央業務（調剤科・注射科）および各部署（TDM科・医薬品情報管理科・製剤科）を、2年目は主に病棟業務を研修する。

●新人の到達目標

- ・病院薬剤師として業務を経験し、薬物治療に貢献できる基本的な薬学的知識・技能を習得する。
- ・業務の中で医療人としての倫理観・人間性を身につけ、患者に寄り添った医療の提供ができる。
- ・他職種と積極的なコミュニケーションを行い、薬物治療に対して責任感を持って業務を行う。
- ・自己研鑽を行い、常に最新の知識を学ぶ姿勢を身につけ、将来的に専門資格取得を目指す。
- ・後輩指導を通じて、正しい知識を理論的に説明できる知識・技能を習得する。

●研修スケジュール

【1年次】

| 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 翌1月 | 2月 | 3月 |
|------------------------------|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|-----|----|----|
| 調剤（計数、散剤、処方鑑査、最終鑑査、窓口対応、鑑別等） | | | | | | | | | | | |
| 注射（注射調剤 注射処方鑑査） | | | | | | | | | | | |
| 化学療法（ミキシング、処方鑑査、最終鑑査） | | | | | | | | | | | |
| TDM/製剤 | | | | | | | | | | | |
| 医薬品情報管理 | | | | | | | | | | | |
| 日直・夜勤※1 | | | | | | | | | | | |
| 病棟①※2 | | | | | | | | | | | |

※1 日直・夜勤は2名体制で行います（導入時は2名+新人1名）。常に誰かがいるという安心感があります。

※2 研修病棟は本人の希望、適性などを考慮して決定されます。

【2年次】

| 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 翌1月 | 2月 | 3月 |
|-----------------|----|----|-----|----|----|-----|-----|-----|-----|----|----|
| 病棟② | | | 病棟③ | | | | 病棟④ | | | | |
| 中央業務、化学療法、日直・夜勤 | | | | | | | | | | | |

病棟①・②：主に内科・外科病棟で基本的な持参薬鑑別、服薬指導、退院指導などを研修

病棟③・④：専門領域（血液内科などの化学療法が主となる診療科、精神科、透析科、救急科、小児科など）を研修

●研修スケジュール【1年次詳細スケジュール（一部抜粋）】

| | AM | PM | AM | PM | 備考 | 講義（例） |
|---------|---------|------|--------|---------|--------------|---|
| 4月 ① | 講義/調剤 | 全体講義 | 講義/調剤 | 全体講義 | 備考 調剤関連習得 | 講義（例） 調剤始める前の講義 |
| 4月 ② | 処方鑑査【担】 | 調剤 | 調剤 | 処方鑑査【担】 | | 処方箋の見方、注射講義 |
| 4月 ③ | 処方鑑査 | 調剤 | 調剤 | 処方鑑査 | | 鑑別業務講義 |
| 4月 ④ | 散剤 | 散剤 | 処方鑑査 | 鑑別 | | |
| 5月 ② | 処方鑑査 | 鑑別 | 散剤 | 散剤 | | 散剤講義 |
| 5月 ③ | 鑑別 | 調剤 | 処方鑑査 | 鑑別 | 免許届いたら麻薬調剤開始 | 麻薬講義 |
| 5月 ④ | 調剤全般 | 調剤全般 | 調剤全般 | 調剤全般 | | |
| 5月 ⑤ | 処方鑑査 | 調剤 | 注射処方鑑査 | 調剤 | 注射処方鑑査：全病棟×2 | |
| 到達度確認 | | | | | | |
| 6月 ① | 処方鑑査 | 散剤 | 注射処方鑑査 | 処方鑑査 | | 薬品管理（注射払い出し等） |
| 6月 ② | 処方鑑査 | 調剤 | 注射処方鑑査 | 散剤 | | レブラミド、クロザリル講義 |
| 6月 ③ | 処方鑑査 | 調剤 | 注射処方鑑査 | 処方鑑査 | | |
| 処方鑑査テスト | | | | | | |
| 6月 ④ | 処方鑑査 | 最終鑑査 | 注射処方鑑査 | 処方鑑査 | | |
| 処方鑑査テスト | | | | | | |
| 6月 ⑤ | 注射処方鑑査 | 最終鑑査 | 処方鑑査 | 処方鑑査 | | クロザリル、レブラミド導入 |
| 処方鑑査テスト | | | | | | |
| 7月 ① | 注射処方鑑査 | 調剤 | 最終鑑査 | 処方鑑査 | | |
| 7月 ② | 注射処方鑑査 | 最終鑑査 | 最終鑑査 | 処方鑑査 | | |
| 7月 ③ | 注射処方鑑査 | 最終鑑査 | 窓口 | 窓口 | ※窓口サポート付きで | 下記の項目を適宜体験 |
| 処方鑑査テスト | | | | | | |
| 7月 ④ | 窓口 | 窓口 | 調剤全般 | 調剤全般 | | ※PET見学 ※NST見学 ※ICT見学 ※外来ケモ指導見学 |
| 8月 ① | 調剤全般 | 調剤全般 | ケモ中 | ケモ中 | | |
| 8月 ② | 調剤全般 | 調剤全般 | ケモ中 | ケモ中 | | |
| 8月 ③ | ケモ中 | ケモ中 | 注射処方鑑査 | 調剤全般 | | |
| 8月 ④ | ケモ中 | ケモ中 | 窓口 | 窓口 | ※窓口独り立ち徐々に | |
| 8月 ⑤ | 窓口 | 窓口 | 調剤全般 | 調剤全般 | | |

●評価方法

評価表を用いて到達目標についての自己評価を行い、進捗状況を確認する。調剤科・注射科業務になれるまでは原則1週間に1回程度到達度を確認する。各部署では研修終了時に到達度確認を行う。

評価者が定期的、継続的に評価しながら統一したスキルの習得を目指す。

● 評価表（一部抜粋） ※ここに載っている以外にも 200 以上の項目で評価

評価項目
 0：未実施 1：不十分（先輩に確認してもらいながらできる） 2：できる（内規や参考書を見ながら1人でできる） 3：十分できる（内規や参考書を見なくても1人でできる）
 ★の項目は2：できる以上で可とする
 ※到達度は1週間に1回、新人教育担当者と確認
 ※適宜、各科の評価

| 調剤科 | | | |
|--------------------|-----------------------------------|----|----|
| 大項目 | 小項目 | 評価 | 評価 |
| 内服薬の処方鑑査ができる | ・入院処方を出力することができる | | |
| | ★用法用量の判断ができる（初期用量、増量幅等含む） | | |
| | ・粉砕や一包化の可否について判断できる | | |
| | ★腎機能に応じた投与量を判断できる | | |
| 散剤業務を適切に実施できる | ・秤量を適切に行うことができる | | |
| | ・錠剤粉砕を適切に行うことができる | | |
| | ・粉砕機を適切に使用できる | | |
| | ・賦形剤の種類、量が判断できる | | |
| 注射調剤科 | | | |
| 大項目 | 小項目 | 評価 | 評価 |
| 注射薬の処方鑑査ができる | ・注射個人セットが病棟にあがるまでの流れがわかる | | |
| | ★用法用量の判断ができる（初期用量、増量幅等含む） | | |
| | ★投与経路や投与速度が決まっている薬剤を列挙できる | | |
| 抗がん薬調製業務を適切に実施できる | ・優先順位をつけて調製できる | | |
| | ・抗がん剤取り扱いのリスクと曝露対策について説明できる | | |
| | ★溶解液の液量、種類が指定されている抗がん剤を列挙できる | | |
| | ・適切なガウンの着脱ができる | | |
| 医薬品情報管理科（DI） | | | |
| 大項目 | 小項目 | 評価 | 評価 |
| 医薬品情報を入手、発信できる | ・信頼性の高い医薬品情報を効率よく収集することができる | | |
| | ・医薬品に関する情報の伝達・周知を行うことができる | | |
| 医薬品の採用に関わる情報を説明できる | ・医薬品の採用にあたり、必要な情報を収集できる | | |
| | ・後発医薬品への切替にあたり、考慮すべき内容を説明できる | | |
| | ・医薬品のヒアリングに参加し、内容を要約することができる | | |
| TDM科 | | | |
| 大項目 | 小項目 | 評価 | 評価 |
| TDM対象薬の特徴を説明できる | ・当院でTDMを実施している薬剤を列挙できる | | |
| | ★当院でTDM実施している薬剤の治療濃度範囲を説明できる | | |
| | ・当院でTDMを実施している薬剤について薬物動態的特徴を説明できる | | |
| 投与設計を行うことができる | ・投与設計時に注意が必要な条件がわかる | | |
| | ・TDM採血を依頼するタイミングがわかる | | |
| | ★バンコマイシン、テイコプラニンの妥当性のある投与量が提案できる | | |
| 製剤科 | | | |
| 大項目 | 小項目 | 評価 | 評価 |
| 製剤業務の意義について説明できる | ・院内製剤の定義と必要性について説明できる | | |
| | ・日病薬の指針に基づくクラス分類を説明できる | | |
| | ・クリーン・ベンチと安全キャビネットの違いを説明できる | | |
| 適切な無菌操作ができる | ・高カロリー輸液の調製を適切に行うことができる | | |
| | ・点眼薬の調製の手順がわかる | | |
| | ・坐薬の調製の手順がわかる | | |

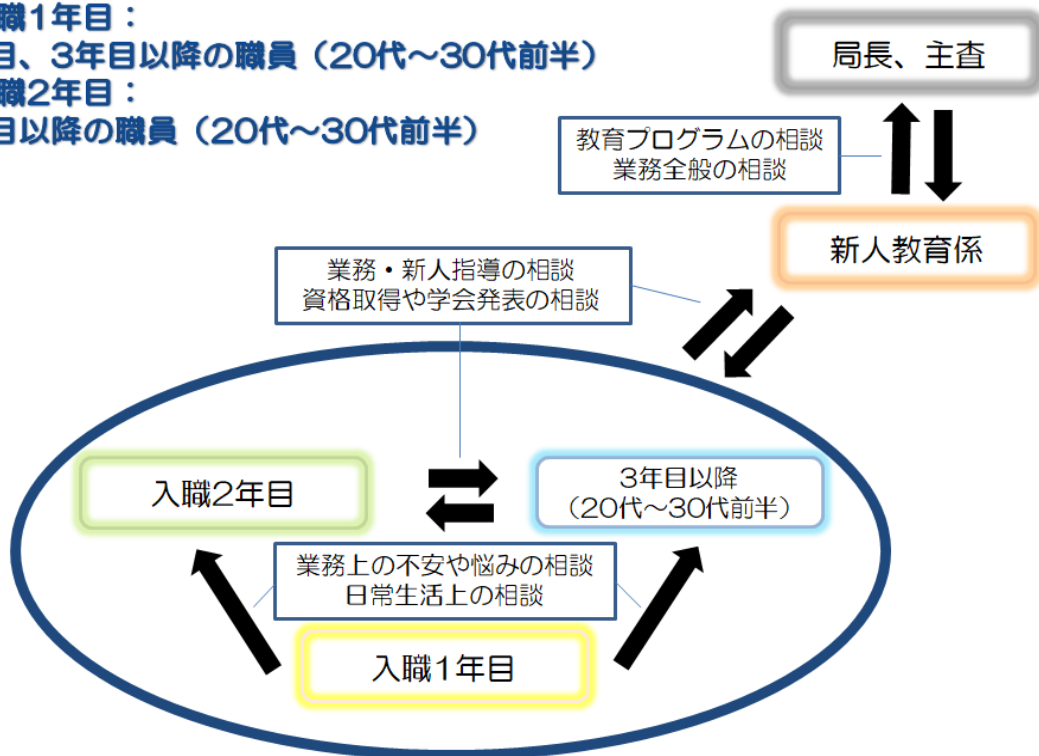
●メンター制度

直属の上司とは別に、指導・相談役になる先輩（メンター）をつけサポートします。

「mentor:仕事上（または人生）の指導者、助言者」

メンター制度

- 入職1年目：
2年目、3年目以降の職員（20代～30代前半）
- 入職2年目：
3年目以降の職員（20代～30代前半）



●先輩の声

入職1年目 R.I

旭中央病院を選んだ理由

私が旭中央病院を選んだのは診療科が多岐にわたり、様々な疾患や薬物治療を通して幅広い知識を持った薬剤師になりたいと思ったからです。

将来の目標

病院薬剤師としての業務を幅広く習得するため、調剤・注射業務だけでなく外来化学療法での抗がん薬調製、院内製剤、TDMなど様々な研修を受けています。今後は病棟業務も行うため、まずはジェネラリストとしての基盤を築き、スペシャリストを目指せるよう経験を積みたいと思っています。

旭中央病院薬剤局の新人教育を受けた・受けている感想

自分の到達度や現状から今後どのように業務を行っていけばよいか、できない部分をどのように改善していけばよいかなど、親身に話を聞いてアドバイスしてくれます。とてもありがたく感じているとともに、改善点を見つけて次回に活かすという目標を持ちながら業務に取り組むことができるので、自身の成長にもつながっていると感じています。

入職時の不安

入職当初は業務への不安が大きかったのですが、先輩方のサポートもあり次第にできることが増えてきて、業務に慣れることができました。また、カリキュラムに沿った教育制度によって、自身の到達度を確認しながら業務に取り組むことができ、不安なことや困っていることも解消できると思います。わからないことや疑問に思ったことを気兼ねなく相談することができる先輩も多く、非常に心強いと思っています。

旭中央病院薬剤局に合う人

どんな方でも・・・。薬剤師として成長したいと思っている方！ぜひ一緒に働きましょう！

◇入職 1 年目 T.H

旭中央病院を選んだ理由

私は就職活動の際、自宅から通える総合病院を探しました。旭中央病院を選んだ理由は様々な診療科があるため、身につけたい専門知識を深めるのはもちろん幅広い知識を習得できると考えたからです。

将来の目標

私は小児医療に興味があり、将来は小児薬物療法認定薬剤師の資格を取得したいと考えています。現在はまだ中央業務しか行っておりませんが、小児科の内服・注射の処方鑑査や最終鑑査を行い、薬物療法を学んでいます。他の診療科においても、なぜこの薬が使われるのか考え、その病棟薬剤師の先輩に相談して知識を身につけています。

旭中央病院薬剤局の新人教育を受けた・受けている感想

新人教育を受けてみて、マンツーマンで全般的な病院薬剤師の業務を教育していただき、少しずつでも成長を感じながら薬剤師をしているなど実感しています。当院は薬剤師数も多くなく、1年目の8月頃から最終鑑査や日直・夜勤業務に入ります。独り立ちのタイミングは私の中ではやや早く、不安を感じることもありましたが。しかし薬剤局の相談しやすい環境やサポート体制が整っているおかげで、現在では不安な気持ちはなく業務を行うことができます。そして責任のある仕事を早期から行うことで、より一層勉強するためのやる気に繋がっています。1年目後半から病棟業務が始まり、さらに専門知識を求められますが、考える力や対応する力を養って頑張りたいと思います。

◇入職 2 年目 A.R

旭中央病院を選んだ理由

私が旭中央病院を選んだ理由は3点あります。1点目は、多岐にわたる診療科のある総合病院で多様な経験を積み、幅広い知識を身につけたいと思ったからです。2点目は、私は特に精神科疾患に興味があり、当院には精神科があったという点。そして3点目は、病院見学時に薬剤局の雰囲気の良い魅力を感じたからです。

将来の目標

今後の目標としては、精神科関連の資格を取得し、患者さんのために役立つ専門薬剤師としてのスキルを磨いていきたいと考えています。

旭中央病院薬剤局の新人教育を受けた・受けている感想

1年目の新人教育では、薬剤局の業務を一通り経験することができ、非常に学びの多い時間でした。

そして2年目からは病棟に配属され、3ヶ月ごとに異なる病棟での業務を経験することができました。これにより、各科の特色や薬の使い方、病態を深く理解することができ、日々の業務が楽しいものとなっています。

私の入職時は同期がおりませんでした。新人教育係の先輩や年の近い先輩が常に気にかけてくださり、不安を感じることなく働くことができました。また今年、初めて学会発表を行いました。発表までの間で苦労することもたくさんありました。しかし、薬剤局の先輩方や医師の先生方、看護師さんのサポートもあり、発表までの間でとても成長することができたと思います。多職種と相談できるのも職員数の多い総合病院の魅力だと思います。今後は私も後輩指導やサポートに関わっていきたいと考えております。

◇入職 4 年目（新人教育係） M.H

新人教育制度立ち上げの前後

私は現在入職 4 年目で、新人教育制度ができる前に入職し、制度の立ち上げに関わりました。私が入職した時、1 年目は調剤・処方鑑査・最終監査・外来持参薬鑑別・窓口業務などの調剤業務がメインでした。2 年目から病棟配属となり、並行して注射業務・外来抗がん薬調製を学ぶといった流れで、現在のような教育体制は確立ありませんでした。

現在は 2 年間の研修期間で、1 年目から調剤業務に加えて、注射業務や抗がん薬の調製・処方鑑査業務に関わることができます。また調剤・注射業務だけでなく、TDM・製剤・DI といった病院薬剤師業務を一通り学ぶことができます。これらを各部署担当者と相談して作られた評価表を用いることで、着実に知識を身につけることができます。私も自分が入職した時できなかったことや、もっとこうしたら良いのという思いをたくさん相談し、新人教育制度を作ってきました。1 週間に 1 回行う到達度確認もあるので、新人さんのペースに合わせて業務などの不安や疑問を相談できます。（正直、今の新人さんがうらやましいです・・・）

また、病棟配属も新人さんの希望を考慮し、3~4 ヶ月ずつ色々な病棟を研修します。自分の興味の幅を広げたり、苦手な領域にチャレンジしたりと新しい可能性が沢山見つけられると思っています。

旭中央病院薬剤局の魅力

私が入職した時から変わらず薬剤局のみんなはとても優しく、本当に雰囲気の良い職場だと思っています。薬剤局は 3 階にあり、窓から光が入るので、外の景色をみて気持ちをリフレッシュできます♪

旭中央病院薬剤局に合う人

一生懸命頑張る気持ち、患者さんに貢献したい気持ちがある方、大歓迎しております！見学だけでもお待ちしております！

